

— サムラングのフリー・クリニックに207人が受診 —

— 助産婦ジョジョの月例(1月分)クリニック報告より抜粋 —

14日: サムラングで無料巡回診療実施。医師は小児科・内科がグレン、歯科はテスおよびメルリー。いずれもボランティアで診療に参加。患者数は合計207名。ヘルスワーカーのリディア、分校教師エレナのほか、ボランティア3名が手伝ってくれた。

<その他の医療支援>

4日: モンゴカヨの2歳のエフリン。5日間、熱、咳、嘔吐が続き、G.サントスの病院での診察の結果、薬を処方。同日、キアミ分校の教師エディに、コミュニティー住民用の咳止め、解熱・鎮痛剤、下痢止めの薬を渡す。

13日: 翌日の無料診療用に、ガレン・ファーマシーで薬を購入。

15日: バリテ、サムラング、モンゴカヨの各ヘルスワーカーが担当エリアの1月の病気別患者数を報告:咳34名、熱24名、頭痛20名、下痢10名、その他を含めて合計107名。

18-22日: キアミで周辺住民に対する健康・衛生教室

23日: キアミのリチャード(11歳)、重症の皮膚病のため病院で検査。結核性皮膚炎と診断され、6ヶ月間抗結核菌剤を服用することになった。

28日: ラビルム分校の教師にコミュニティー用に各種の薬を渡す。



●昨年10月に赴任した助産婦ジョジョ(右はFr.ルーイ)

上記のフリー・クリニックは、ちょうど佐藤さんと2人で現地を訪問中のことだったので、マーベル滞在中の森田奈美さんとともに診療状況を見学することができました。

患者でごった返すクリニックの壁に、幼稚園にあるような成績表を見つけました。リディアに聞くと、健康・衛生教育の一環として、「トイレを作ったか、庭に野菜を作っているか、花を植えているか…」など4項目について、8つのシチオ間で住民が互いに達成度を競い合うようにしているとのこと。

近くの畑では、母親たちによって、給食用の野菜が栽培されていました。昨年、会員の皆様のご協力で4ヶ月間の干ばつ緊急給食支援をしましたが、その後も住民の手で、週二日の給食を継続実施しています。(山崎)

— 第2ラウンドに入ったサムラング住民組合 —

すでに2回目のコーン栽培が始まっていました。中には雑草の方が元気な畑もあります。日常的農業指導はサムラング・コーディネーターのラウロの担当。

一方、組合員への生産資材の貸し付け、返済、コーンシェラー使用料などの帳簿を付けているのは今のところ分校教師のエレナ。組合としての蓄えも多少でき、順調な滑り出しですが、問題は組合員が生活費を借りに来るようになったこと。生産資材の低利融資が主目的であり、たとえ低利でも安易に借金に頼ることのないように指導中だそうです。

集落を見下ろすすかなり急峻な山腹に、マホガニー、ナラ、バグラスの苗木が植えられていました。モデル農場では、飼料用コーンの栽培、アヒル・豚の飼育、ティラピア(鯛に似た淡水魚)の養殖が行われていました。植林もモデル農場も、現在ではCMBの指導の下、すべてサムラング住民組合が管理しています。

周辺シチオの住民からの組合加入申し込みが増えているが、組合の新規貸し付け能力に限度があるので、現在、何家族かは順番待ちとのことでした。(山崎)